

様式 14 評価テーマに対する提案

「地域振興」と「観光振興」の両輪を最大化する配置・連携計画」「安全な動線確保と実効性の高い段階的整備（ローリング計画）」及び「運営効率化と維持管理コスト(LCC)に配慮した施設計画」についての提案

テーマ1、「地域振興」と「観光振興」の両輪を最大化する配置・連携計画

●一体的なコミュニティ空間の創出

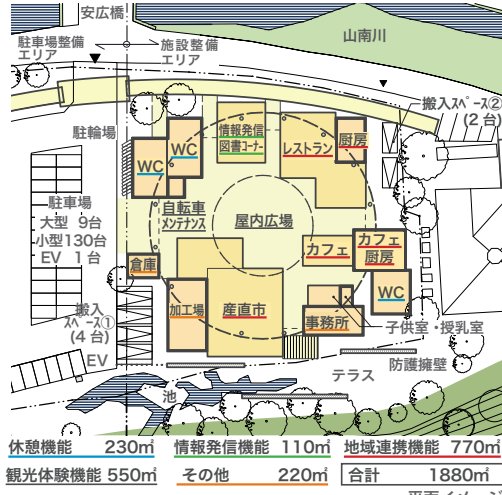
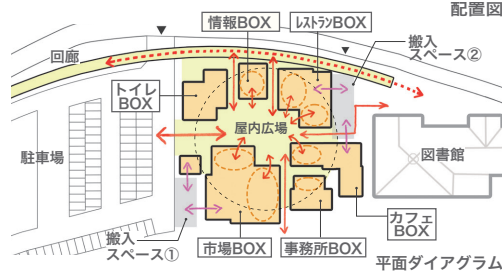
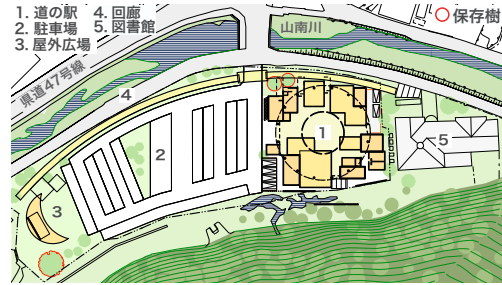
山と川に挟まれた細長い敷地に対し、山南川に沿って約200mの回廊を渡します。屋外広場から図書館までの間が回廊によって結ばれます。道の駅は大屋根の下にランダムに建物が集まった形態です。図書館を含めた一体的な整備によって「住民の居場所」と「沿線の観光発信」が共存するコミュニティエリアを形成します。

●交流と発信の拠点となる配置計画

屋内広場を囲むように異なる機能を持つ6つのボックスを配置します。ボックスの分散配置によるズレや隙間が細い路地や街角になります。ボックスの賑わいが広場に溢れ出し、唯一無二の交流と発信の拠点が生まれます。搬入スペースは2箇所設けて客動線との交錯を回避します。

●施設の機能連携計画

直径45mの木造ドーム中央は、トップライトのある明るい屋内広場です。広場に面したレストラン、カフェ、産直市はガラス建具を全面開放して一体的なイベントも開催できます。トイレと情報発信機能は安広橋から見えやすい場所に配置、図書コーナーには図書館と連携した地域の子育て支援の役割も盛り込みます。子供室は事務室に隣接して見守りを重視。また厨房と加工場は搬入スペースに隣接してバックヤード機能を集約します。夜間のセキュリティは、ボックス間に門扉を設けて確保。山側は敷地外ですが、水辺空間の再整備と土砂災害に備えた防護擁壁で修景を提案します。



テーマ2、安全な動線確保と実効性の高い段階的整備(ローリング計画)

●体験と発見を生む屋内広場

屋内広場にはボックス間の通路を介して四方からアプローチでき、大人数の催しでもスムーズに入退場できます。マーケットやワークショップ等のボックス内の「ひと・もの・こと」が広場まで染み出す連携イベントも可能です。災害時には、支援物資や情報の提供拠点にも供します。

●回廊による各施設の連結と歩車分離

屋外広場から図書館の間を結ぶ回廊は、駐車場と分離した安全な歩行者専用ルートで、道の駅の各ボックスや屋内広場とも連結します。イベント時には屋上やテント等、人が集い賑わう場所にもなります。また段階的整備の過程においては利用者の安全通路に供することも可能です。

●屋外イベント時の安全性

必要駐車台数を確保した上で敷地北端に屋外広場を設けます。三日月屋根のあるステージは県産木材を用いた明るい空間で、駐車ゾーンと明確に区分することでイベントの独立性と安全性を確保します。回廊や駐車場、道の駅まで拡張した様々な会場設営のバリエーションが考えられます。

●段階的整備方法の検討

既存施設の営業を継続しながらスムーズに新施設に移行可能な施工ステップを考案します。特に「客用駐車場と工事ヤードの両立」「安全を担保した工事用ゲートの両立」「安全を担保した工事用ゲートの両立」「安全を担保した工事用ゲートの両立」に留意します。また「構造の簡易化と合理化」、「部材のユニット化、流通材の活用」による工期短縮を検討します。

